

# 諦めずに一生懸命 ひたすら夢を追い続けた

自作のクルマを作ることを夢見て青木さんは立ち上がった。蒸せかえる息苦しいガレージの中でたった一人、コツコツと夢を具現化させていた。既製品のパーツを組み合わせただけのクルマではない、すべてがオリジナルの夢のクルマ。膨大な時間と資金が必要とされるだけでなく、体力も極限まで酷使されたほど過酷な作業。しかし、諦めず、ひたすら夢を追い求めた…

**叶**うかどうかは別にして、人間一度は夢を抱くもの。しかし、残念ながらその多くは夢のまま終わってしまうのも事実。それは、夢は“見るもの”と決めてかかっているからに他ならない。しかし、高知市の青木健一郎さんは夢は叶えるものだと思っていたようだ。青木さんの夢は自作のクルマを作ること。

「小さい頃からメカをいじるのが好きでね。その頃から自分でクルマを作りたいと思っていたんです。まあ、その時はまだ漠然とした感じで、どんなクルマを作りたいってところまでは考えていなかったのですが」

この度完成した自作スポーツカー「キムリック・エーワン」は、その少年時代から抱き続けた夢の結晶であった。だが、この夢を叶えるのはもちろん容易なことではない。クルマを作るとなるとメカの知識は半端で

はできないし、人間関係、幅広いコネクションが必要になってくる。そう思ってた、少年の頃から頻りに機械を触り、いろんなことに並々ならぬ興味を抱くようになっていたのだ。

高校卒業後、好奇心旺盛な青木青年はバイクレースを始め、自身メカニックとして腕を振る。しかし目に止まったのはメカとしてではなく、レーサーとしての才能。当時レース活動をしてきたブリヂストンの専属ライダーとして抜擢されたのだ。

「でも、専属ライダーってバイクに乗るだけでしょう。だけど僕はメカがいじりたくて仕方なかったですから、メカニックに加わっていろいろ手を入れてましたよ。レースよりもメカをいじる方が楽しかったんです」

後に四輪レースに転向し、本格的なレース活動に入り、西日本を中心に大活躍。そして'86年から参戦し始めたFL-Bという小型フォーミュラカーの運動性に強い印象を受け、それが今回の「キムリック・エーワン」のヒントになったのだという。

「ものすごく純粋な運動性、つまり加速する、曲がる、止まるすべてのフィーリングが楽しくて仕方なかった」

このコンセプトはそのままキムリック・エーワンに引き継がれ、少年時代に抱いた漠然としていたクルマが、その頃から少

しづつ頭の中で形ができていた。その数年後、また一台青木さんの五感を刺激するクルマに出会う。「メッサーシュミット」。小さくてかわいいクラシカルな3輪自動車だ。

「もともと小さいクルマが好きだったんですけど、さらにこの愛らしいスタイル。すっかり気に入って、外観の雰囲気はメッサーシュミットでいこうと思ったんです」

運動性能、スタイリングともにコンセプトが決まった。そして、その頃にはメカに関する知識、技術は十分過ぎるほどに習得していた。そしてクルマを作るにあたってのコネ、人間関係も苦勞してきたレース活動などを通して大きく広がっていた。そう、機は熟したのだ。

'93年、いよいよ夢への第一歩は踏み出された。

まず、最初の1年は図面を書き上げるのに費やされた。大小合わせてナント300~400枚！それまでの長かった下準備のあおりか、堰を切ったような勢いで書きまくった。

しかし、その勢いも長くは続かなかった。図面が完成し、'94年に製作段階に入ってから、体力的にかなりキツイことを身を持って知らされる。クルマを一から作るのだから、設備の整ったファクトリーで製作していると思いきや、実際は住宅地に

**「楽しかったのは最初の1年と組み立てる時だけ。あとはいつも苦しくて逃げ出したい気持ちでいっぱいだった…」**

## 青木 健一郎

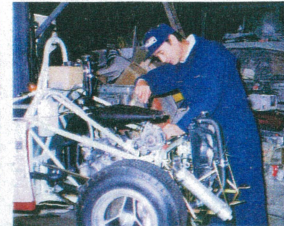
昭和22年高知市生まれ・54歳  
ブリヂストン専属ライダーとして活躍し、その後4輪のレースに転向。西日本では「敵なし」といわれるほどの実績を残す。現在は自動車整備をする傍ら、レーシングコンサルタントとして後身の指導をしている。



外観のヒントになったメッサーシュミット。今は青木さんの普段の足として毎日乗られている



驚くなかれ、このクルマはたったこれだけの工具で出来たのである。ほとんどハンドメイド！



シャーシ、エンジン、足廻りなどは過去に培ってきたノウハウがあったので比較的スムーズに作業は進んだ



困難を極めたのはボディ製作。なかなか納得のいく仕上がりにならず、2度作り直し、3年の歳月を要した



お世辞にもキレイとは言えない小さな薄暗いガレージ。しかし、だからこそロマンがあるのだ

ある小さな古びたガレージだった。もちろん充実した設備があるわけもなく、あるのはホコリと薄暗く照らす光ぐらい。空調など持っていない。よって夏のガレージ内は蒸し風呂同然。まわりが民家のために扉を開けての作業もできない。

「ガレージは基本的にトタンで出来ているからサウナ状態。気温は50℃にもなる。水は1日12リットルぐらいは飲んでいましたよ。それでも体重は10kgは減りました」

体力的な壁にぶつかったとはいえ、それでもシャーシ、エンジン、足廻りなどは手慣れた分野。比較的スムーズに作業は進行していき、製作にかかって約1年で大方の形はできていた。しかし、ボディの製作に入ると大きな問題に直面した。メカに関してはそれまでの培った知識や技術があったが、ことデザインも頭の中で思い描いているものはあるが、それが思うように形に出来なかったのだ。

「なかなかイメージにそぐったものができなかったんです。ずっと悩みながら作業しているものだからなかなか捗らなくて。期間が長くなると、デザインのイメージも少しづつ変わってきたりして、それをまた悩みながら作業している、またイメージが変わって…」

悩み、試行錯誤しながらもなんとか1年かけてボディの第1作が完成。しかし…

「捨ててしまいました。どうも納得できなかった、思い切って捨てたんです。1年間がバアですよ。たまに近所の人気がして見に来るんですけど、作ったボディを“捨てた”と言うと、呆気に取られてましたよ。苦勞して作っていたのを知ってましたからね」

このあとも困難を極めたボディの成形。実はさらに1年をかけて作った第2作ボディも同じ理由で廃棄してしまいました。しかし、長年思い続けていた夢である。そこで妥協しようものなら、夢自体を妥協したことになる。そんな気持ちでクルマが完成しても青木さんにとっては夢が実現したとは言えないと思ったのだ。2年間、血の汗が出るほど苦勞して作り上げてきたボディを捨ててしまう事は、断腸の思いだったに違いない。しかし、そこまでしても完全な形で夢を実現させたかったのだ。

悪戦苦闘するボディ製作に追い打ちをかけるように、体力的な限界を迎えていた。レースで鍛えられてきたタフな青木さんだったが、この時すでに50歳を目前にしていた。明らかに体は極限状態までできていた。

「ボディを製作するときは空气中をホコリなどが大量に舞っ

ているんです。防塵マスクはしているんだけど、あまりのホコリの多さにマスクが詰まって息ができなくなる。それに加えて中はサウナ状態。たびたび酸欠になっていたものだから、慢性的な頭痛に悩まされたりしていました。そして、雑巾の方がきれいなくらい汚くなった作業着で家に帰り、マンションの階段を登る脚力も無く、ズボンの膝を手で摘んで引き上げながらやっとのことで部屋にたどり着くと、すぐに布団に倒れ込み、そのまま眠りに就いてしまう。寝ても頭痛のせいで夜な夜なうなされる日々が続きました」

しかし、青木さんは諦めなかった。度重なる苦難が押し寄せようと、ひたすら夢を実現するために前へ進んでいった。それには、もう後戻り出来ない理由もあった。

「正直言って、楽しかったのは最初の1年と最後の組上がる2、3ヵ月だけ。あとはいつも逃げ出したい気持ちでいっぱいでした。日々、自問自答して、辞める理由を探していた時期もありました。でも、ここで辞めたら、それまで協力してくれた人達を裏切ることになる。そして、それから一生つきまとうであろう挫折感を味わいたくなかったです」

このクルマは、すでに青木さんだけの夢ではなくなっ

た。青木さんの夢に相乗りした協力者の夢でもあったのだ。

ボディ製作に入って約3年が経とうとした頃、長く続いた苦勞も何とか3作目で納得いくものが出来た。それからは完成へ向けて一気に加速していき、昨年の春、ついにめでたく完成！夢は叶ったのだ。

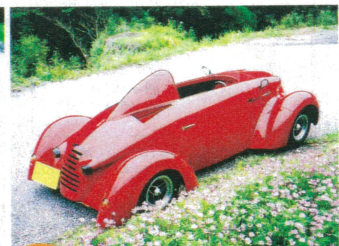
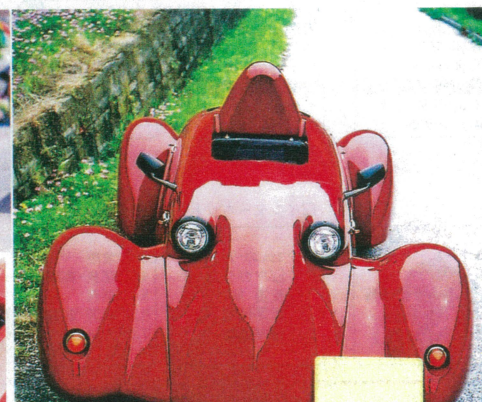
「いろんな人が見に来ました。ある工業大学の先生は、ボディを見て『ファイバーで、これだけ成形、仕上げが美しいものは見たことない』と言って下さったんです。もう、うれしくて…。苦勞した甲斐がありました」

もともと個人の趣味で作ったクルマだが、あまりの出来の良さに地元の大手御所カーマニアから発表をするように勧められ、サーキットでお披露目もした。最高速は楽に200km/hオーバー！コーナーリング性能、楽しさも、あの時のフォーミュラカーのようである。

多くの人の勧めもあり、このクルマの市販化も計画。まだ具体的には決まっていないが、ぜひ実現して欲しいものだ。

夢を見事に果たした青木さん。次は「子供が好きなので、動物の形したクルマを作って子供たちを喜ばせたい」と澄んだ笑顔で話してくれた。

夢は“叶えるもの”。青木さんが身を持って教えてくれた。



## キムリック・エーワン

### 主要SPECIFICATION

●排気量：500cc ●全長×全幅×全高：3160mm×1420mm×1020mm ●ホイールベース：2060mm ●トレッド：1200mm ●重量：275kg ●ブレーキ：ディスク ●サスペンション：ダブルウィッシュボーン ●ボア×ストローク：60mm×58mm ●ボディ：FRP